



田中三郎さん

不眠不休の極度の疲労とストレスが原因となった障害の手術が必要となったため、責任と義務を果たせなくなった」との声明を発表し、権限を弟のラウル・カストロ氏に委譲した。しかし、病状の回復が遅れたため、2008年2月、国家評議会議長兼閣僚評議会議長を退任し、そのポストをラウル氏に譲った。2011年4月には、1965年から務めていたキューバ共産党第一書記も辞め、そのポストをやはりラウル氏に譲った。

闘病、その後の引退といった身近の変化にもカストロ氏の強靱な精神力は衰えをみせず、同氏は2007年春から、共産党機関紙『グランマ』に「フィデルの思索」と題するコラムを書き続けている。

その「フィデルの思索」の内容とカストロ氏の思いを少しでも伝えたいという狙いから刊行されたのが本書である。「『思索』はキューバではスペイン語、英語の数冊の書となってまとめられているが、日本を始め多くの国では無関心あるいは無理解に放置されている」からだと著者は言う。

著者の田中三郎氏は1996年11月から3年3カ月にわたって駐キューバ大使を務めた元外交官である。田中氏は7年前の2005年に『フィデル・カストロ——世界の無限の悲慘を背負う人』（同時代社）という大著を出版しており、今回の著書はそれに次ぐものだ。

本書によれば、田中氏は駐キューバ大使在任中、数十回にわたってカストロ氏に会う機会があったという。さらに、日本帰国後も、「フィデルの思索」にずっと目を通してきた。田中氏はそうした自らの経験と、カストロ氏の著作を読み続けて得た感想から、カストロ氏の人柄と思想を描き出す。

それによると、素顔のカストロ氏は「非常にデリケートで女性のように優しい」という。それに「非常に謙虚な方」という。「どうして謙虚かということやはりもう早いときから、50年前から自分の命を捨てて革命という国のために闘うという覚悟ができています人ですから、日本でいえば西郷隆盛さんが持っていたような無私の心を持った人、だからこそ、常に謙虚であるということが可能であったんだと思います」と田中氏。

そして、同氏は、カストロ氏がそのような「徳」を身につけたのは、幼少のころから高校までに受けたジェスイット系のカトリック教育と、「キューバの使徒」といわれるホセ・マルティの思想から影響を受けたからではないか、と述べている。

また、田中氏は、カストロ氏の人間性の優れた面として「類い稀なリーダーシップ」「忍耐力」「モラルの高さ」「清貧の思想」などを挙げている。

田中氏はまた、カストロ氏の思想の根本にあるものとして「絶対平和思想」を挙げる。田中氏によれば、それを根底から支えているのは「人間の尊厳と正義という厳然たる普遍的原理」なのだという。

田中氏は続ける。「カストロにとっての尊厳とは、大義あるいは他人のために生命を捨てることのできるような人間の尊厳である。世界各地の弱き者、抑圧・差別され無限の悲慘に生きる多くの人々に対するカストロの感受性と憐みは真剣である。また、カストロの正義は、世界各地の巨大な差別、不正（この現実をカストロは『世界全体に拡大するアパルトヘイト』と呼んでいる）に対する激しい怒りを基盤としている。……カストロの政治的、思想的師でもあり、キューバの『使徒』とよばれるホセ・マルティが残した『椰子より高く正義を掲げよ』という美しいことばに生きるのが、カストロとキューバの人々である。カストロは、現実の困難に直面すると、必ず、正義と尊厳という高貴な理念を掲げ、若い人々を中心とする全国民の思想の闘いを展開させる」

田中氏は、カストロ氏が主導したキューバ革命についても「本来『社会主義』革命ではなく、社会正義と人間の尊厳というヒューマニズムを理念とするモラル革命、民族解放革命であり、その根本理念に基いて現実的な『より効率的で完全な社会主義』建設を目標にしている」と位置づけている。

絶対平和思想に立脚するから、核に対しては「絶対否定」だ。核爆弾、核ミサイルに反対するのはもちろんだが、原子力発電にも否定的だ。本書によれば、カストロ氏は2009年2月4日付の「思索」で原発の危険性を指摘し、「オバマはエネルギー供給源として原発の建設を早急に進めようとしている。しかし、原発は人命、環境、食糧に対し悲劇的な結果をもたらす恐れのある事故発生の可能性が極めて高いので、多くの人々が反対している。このような大事故の発生を防止することは絶対に不可能である」と、オバマ・米大統領の原発推進に警告を発している。

昨年3月11日の東京電力福島第1原子力発電所の事故は、ある意味では、カストロ氏の予測を証明した形となったが、カストロ氏は事故直後の3月14日付の「思索」で「日本の原発事故は、原子力発電所の拡散に反対する世界の人々の抵抗を加速化させるであろう」と述べているという。

カストロ氏の思想と人間性について書かれた著作は少なくない。が、元外交官、それも日本の外交官によって書かれたものは極めて稀れ、と言っていいだろう。しかも、これだけ魂を込めて熱烈にカストロ氏の思想と人間

性に傾倒した「カストロ論」もまた極めて稀れだ。読者の中には、著者のカストロ氏への傾倒ぶりに辟易する人もいるかもしれない。

田中氏自身も、本書の中で「私のキューバびいき、あるいはカストロ議長びいきは、次第に日本政府に評判が悪くなりました。評判が悪いのは日本政府だけではなく、実は最初の間は我が家族、妻と一人の娘が一緒に行ったんですが、家族の間でも大変評判が悪く……」と述べている。が、その後続く同氏の文章は「キューバびいきと言いますが、一言で言えば私は日本の大使です。私が日本政府に伝えたいと思ったのは、キューバの人々、カストロ議長もそうですが、この人達が持っている、本当に強い愛国心と、モラルの高さ。それを日本の人々に伝えて、解って欲しいという想いだったわけです」というものだ。

日本の外交官にこうした想いを抱かせるなんて、カストロ氏はやはり類い稀な傑出した人物ということであろうか。

275 ページ。1900 円+税

お知らせ

## 円卓会議共同代表に 山本伸司・パルシステム連合会理事長

当キューバ友好円卓会議の共同代表（2人制）に山本伸司・パルシステム生活協同組合連合会理事長が就任しました。共同代表の1人を唐笠一雄・同連合会専務理事が務めておりましたが、2011年6月に専務理事を退任され、併せて円卓会議の共同代表も退かれたため、代わって山本理事長が共同代表に就任しました。山本は首都圏コープ事業連合商品統括本部長、パルシステム生活協同組合連合会専務補佐を経て同連合会理事長に就任しました。

もう1人の共同代表は岩垂弘（ジャーナリスト）です。



お知らせ

キューバ諸国民友好協会

## ICAPが国際ブリガダ 2012 の参加者を募集しています お問い合わせはキューバ大使館へ

ICAP（キューバ諸国民友好協会）が、第7回メーデー国際ブリガダ 2012 の参加者を募集しています。ICAPによれば、ブリガダとは「ボランティアワークと連帯活動」のことで、その目的はキューバの現実について理解してもらうと同時に、キューバの農業生産を支援してもらうことにあるとのことです。

第7回メーデー国際ブリガダは4月22日から5月6日まで、ハバナ、アルテミサ、ピナル・デル・リオで行われます。費用は295CUC。これには、国内または国際航空運賃は含まれていません。

参加を希望される方は下記までご連絡ください。

【問合せ】キューバ共和国大使館 政務部（田代） TEL：03-5570-3182 FAX：03-5570-8521  
E-mail: tcultura@ecujapon.jp

### 国際ブリガダ 2009

写真提供  
2009年に3人の  
息子さんと  
ブリガダに  
参加した  
芳賀法子さん



農作業のボランティアワーク、世界各国の参加者との交流、観光など多彩なプログラムが組まれている

収	前年度繰越金	978,403	支	通信費	86,322
				印刷・事務費	15,384
	会費	230,000		会場使用料	99,750
	寄付	40,582		講師等謝礼	120,000
	フォーラム入場料	108,000		販促物等仕入	49,500
	物販収入	47,910		振込手数料	220
	利息	129		雑費	6,770
入			出		
	計	426,621		計	377,946
	合計	1,405,024		合計	377,946
	※2011 年度繰越金	1,027,078			

(※繰越金にはハリケーンカンパ予備費としての預かり金 19,000 円が含まれます)

東日本大震災・福島原発事故 1 周年

## 原発いらない！ 3・11 福島県民大集会

～安心して暮らせる福島県をとりもどそう～

★県外からの参加  
歓迎！

★支援をお願いします

詳細はHPを  
ご覧ください

日時 3月11日(日) 12:30～開場 13:00～開始

会場 郡山市 開成山野球場 (福島県郡山市開成1丁目5-12)

郡山駅西口より福島交通バス・各方面行きで「郡山市役所」下車後徒歩2分／郡山駅西口からタクシーで約10分  
東北自動車道・郡山ICより車で約15分

★駐車場は団体バス専用の駐車場のみ、事前予約を受け付けています。それ以外の駐車場は準備できません。郡山駅周辺等の有料駐車場、または公共交通機関をご利用ください。

**開催趣旨** 東日本大震災と福島原発事故により、福島県と県民はかつてない困難な状況に置かれています。特に原発事故による県内における放射能の拡散は、すべての産業と県民の暮らしに大きな打撃を与えており、健康に対する懸念も大きくなっています。国や東京電力も対応を進めてきていますが、県民の思いからすれば、取り組みは遅くまた決して十分とは言えません。

安心して暮らせるふるさと・福島を取り戻し、復興を実現するには、事故の収束、除染、そして損害賠償、雇用と生活の保障等が実現されなければなりません。しかし、一方で、時の経過とともに、全国的に関心が薄れ、福島苦境が忘れられていくことも懸念されます。

大震災と福島原発事故1周年の節目に、県民の願い、要望を全国に発信し、国や東京電力に一層の取り組みの強化を求めるために、県民が総結集する集会を開催します。

大震災と福島原発事故1周年の節目に、県民の願い、要望を全国に発信し、国や東京電力に一層の取り組みの強化を求めるために、県民が総結集する集会を開催します。

13:00～ オープニング・コンサート／加藤登紀子 ほか

14:00～ 県民大集会／開会あいさつ／呼びかけ人あいさつ／大江健三郎さんの  
連帯あいさつ／県民の訴え／集会宣言採択／閉会の言葉

15:00～ 行進説明／15:15～ 行進開始

### 実行委員会事務局

〒960-8106 福島市宮町3-14 (労働福祉会館内)

TEL:0800-800-5702 Fax:0800-800-5703

<http://fukushima-kenmin311.jp/>

### 呼びかけ人

青木千代美 (福島県女性団体連絡協議会会長)  
小淵 真理 (アウシュヴィッツ平和博物館館長)  
大石 邦子 (エッセイスト)  
片岡 正彦 (弁護士)  
熊谷 純一 (福島県生活協同組合連合会 会長)  
玄侑 宗久 (作家・福聚寺住職)  
清水 修二 (福島大学副学長) 呼びかけ人代表  
野崎 哲 (福島県漁業共同組合連合会会長)  
山崎 捷子 (国際女性教育振興会会長)